

VOGUE

NIPPON

4

April
2011
No. 140
¥680

ヴォーグ ニッポン

www.vogue

特別付録
ロエベの
特製ネイル
についてま



好きな形
カット!

大人のマリン 大特集!

ミニとロング。着こなし攻略。

スタイルアップの「お尻学」。

2011ニューフェイスは私。

次の主演は、
アクセサリーで狙う。

村上春樹 インタビュー

話したくなる

川上未映子、佐々木

松井大輔、
モードに変身!

別冊付録
Isetan Mania 2011 S/S

NEXT WAVE

春のアク

・カタログ決定版15

VOGUE NIPPON
Printed in UK
APR 11 \$29.99

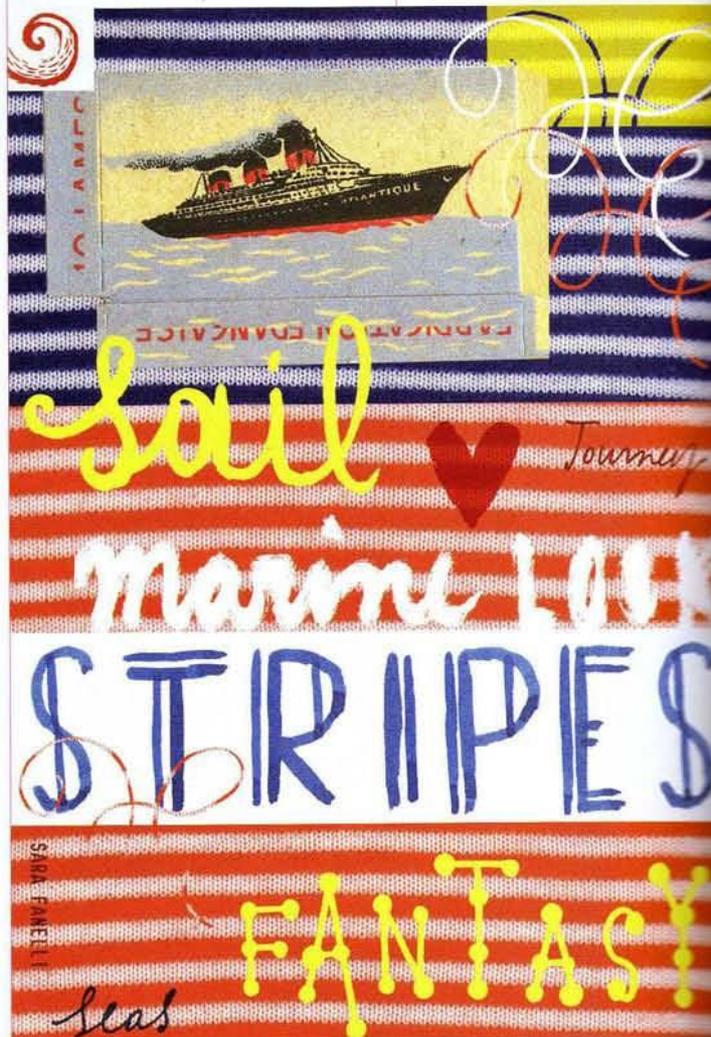
0 74470 87556 7

FASHION

- 102 Fashion Tutorials
クチュールコレクション最旬おしゃスナ。
- 108 Two Hearts as One
モデル・カップルの
オシャレな最旬・恋愛物語。
- 166 All About Mini & Long
ミニ&ロング、
お悩み完全攻略カルテ。
- 174 Fun and Fruity
春のデコレーション宣言。
- 183 Special Accessory Book
春夏のバイブルに。
本命アクセ大図鑑。
- 293 Butterfly Blooming Collection
ロエベの蝶と花が可憐に舞った東京の夜。

FASHION STORIES

- 245 IMAGINATION OF CHANCE
時空を超えるモードの祭典。
- 246 A REFLECTION OF
GLAMOUR
グラマーを追い求めて。
Photos: Katja Rahlwes
- 258 BEAUTY OF EXTREME
究極のオプティミズム。
Photos: Solve Sundsbo
- 270 THE MEMORY OF ROME
ローマに刻まれたイタリアンモード。
Photos: Terry Richardson
- 280 BOOTS AND SADDLES
貴婦人の遊戯。
Photos: Mark Segal



REGULARS

- 061 IN VOGUE Fashion
ホットピンクも
タンジェリンオレンジも、
マルチ配色で纏って!
- 063 IN VOGUE Fashion
春風にそよぐフルパンツは、
70s調セットアップで。
- 065 IN VOGUE Fashion
シャツドレスから
チュニックブラウスまで。
春のレザーは変幻自在。
- 067 IN VOGUE Fashion
気になるトレンドをチェックしよう!
最新ファッション・ニュース。

069 IN VOGUE Lasting Impressions

★ヤスミン・ゴリ
自由にそよぐ海辺の風が
誰よりも似合う、
褐色のエキゾチックな女神。
ヤスミン・ゴリ。

083 IN VOGUE Restaurant Critic

★犬養裕美子さんの美食ファイル
まさらの新人レストランと
移転したベテランワインバー
こんな切り札を
1店は知っておきたい。

085, 087 IN VOGUE Vogue Interview

世界のヴォーグ発信、
ヴォーグな話題。

089 IN VOGUE Design Hunter

個性派アイテムで効かせる。
“ほっこりマリノ”。

SUPPLEMENTS

★別冊付録

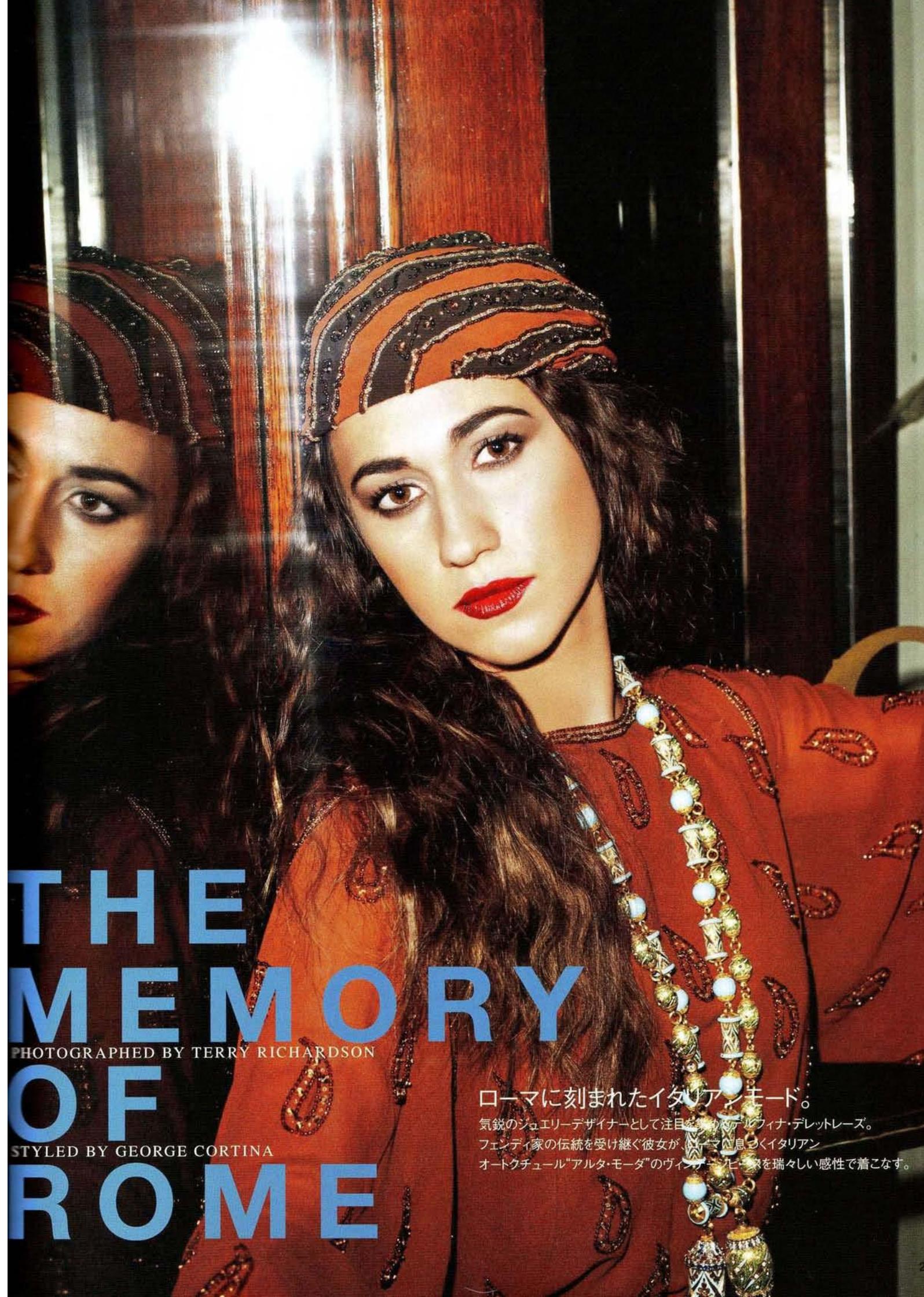
Isetan Manis 2011 S/S

★特別付録

Loewe ネイルシール

VOGUE

VOGUE NIPPON
APR. 2011 N°140



THE MEMORY OF ROME

PHOTOGRAPHED BY TERRY RICHARDSON

STYLED BY GEORGE CORTINA

ローマに刻まれたイタリアンモード。

気鋭のジュエリーデザイナーとして注目を集めたデルフィナ・デレットレーズ。フェンディ家の伝統を受け継ぐ彼女が、ローマを息づくイタリアン・オートクチュール「アルタ・モーダ」のヴィンテージ・ジュエリーを瑞々しい感性で着こなす。





ANDRÉ LAUG
アンドレ・ローグ

1968年にオートクチュールメゾンとしてスタートしたアンドレ・ローグ。ゴールドに輝くドレスには、裏打ちされた精巧な技術力とマテリアルを知り尽くしたグッチュリエとしての美への探究心が凝縮されている。ANDRÉ LAUGの1975年のブリーチ状のドレス。COLLEZIONE ENRICO QUINTO。E. PAOLO TINARELLI (www.italianglamour.it) / バングル、リング。すべて DELFINA DELETTREZ (www.delfinadelettrez.com) / イヤリング、FILIPPO MORONI



PINO LANCETTI

ピノ・ランチェッティ

1961年、ローマにオートクチュールの店を開き、アルタ・モーダ（イタリヤ・オートクチュール）界を牽引したピノ・ランチェッティ。たぐいまれな色彩感覚とファンタジックなアイデアは、彼の魅力のひとつ。物語を想像させるきらびやかに彩られたドレスのラメプリントは、芸術家としての彼の才能を感じさせる一編。PINO LANCETTIの1973年のラップトップとラメプリントのパンツ／ともに COLLEZIONE ENRICO QUINTO E PAOLO TINARELLI (www.italianglamour.it) イヤリング リング／ともに DELFINA DELETTREZ (www.delfinadelettrez.com) ネックレス／ともに FEDERICO BUCCELLATI (www.federicobuccellati.com) ブレスレット（右手）／CAZZANIGA ROMA (www.cazzaniga.net) ブレスレット（左手）／FILIPPO MORONI（右ページ）PINO LANCETTIの1974年のゴールドとビーズの刺繍をほどこしたドレスとスカーフ／ともに COLLEZIONE ENRICO QUINTO E PAOLO TINARELLI (www.italianglamour.it) 1960年のネックレス／ともに CAZZANIGA ROMA (www.cazzaniga.net)



VALENTINO COUTURE

ヴァレンティノ クチュール

伝説で立脚されたスタイルを生み出し、世界的なデザイナーとなったヴァレンティノ・ガラヴァーニ。1982年にローマビオットクチュールのアトリエを構えて財界界の注目を集めるまで、モダンなファッション雑誌にも高貴な華やかさをもたらす。VALENTINOの1976年のシルクのパジャマスーツ / COLLEZIONE ENRICO QUINTO E PAOLO TINARELLI (www.italianglamour.it) イヤリング FILIPPO MORONI ネックレス DELFINA DELETTREZ (www.delfinadelettrez.com) シューズ Y68_250 (参考色) CHRISTIAN LOUBOUTIN (クリスチャンルブタンジャパン)



ROBERTO
CAPUCCI

ロベルト・カプッチ

布による彫刻と評されるカプッチンで、華やかな世界を創り出す。ミズにアモード界の巨匠ロベルト・カプッチ。感性による計算された造形と鮮やかな色で描かれた、上質なまさにアートな逸品。ROBERTO CAPUCCIの1982年のラッフルブリーツのドレス「COLLEZIONE ENRICO DUMETO E PAOLO TINARELLI」(www.italianglamour.it) 1967年のイヤリング「1968年のプレスレット」(右手) とともにCAZZANIGA ROMA (www.cazzaniga.net) のリング「プレスレット」(左手) とともにDELFINA DELETTREZ (www.delfinadelettrez.com)



RENATO BALESTRA

レナート・バレストラ

上質なイタリアンエレガンスを代表するデザイナー、レナート・バレストラ。世界のセレブや王族に顧客を持つ彼が生み出すファッションは、ドラマティックに包み込むフェザーのボアのように、華麗な夢をみせてくれる。RENATO BALESTRAの1978年のシフォンドレスとポアント、ともにCOLLEZIONE ENRICO QUINTO E PAOLO TINARELLI (www.italianglamour.it) イヤリングプレスレット/すべて DELFINA DELETTREZ (www.delfinadelettrez.com) 1987年のリング/ともに CAZZANIGA ROMA (www.cazzaniga.net)

La modernità del tempo ——アルタ・モードの復活——

Text: QUIRINO CONTI

入り口を入ってすぐに、室内環境と雰囲気によって、その豪華さやそこに込められた集中力、そして細心の配慮が見受けられた。飾られた調度品の細部は完璧を追求するための苦しみから生み出されていた。重厚なクリスタルでできたあふれんばかりの花束のいつも白い花、モノクロの絨毯、乾いた心地よいソファ、スタッコ塗り（イタリアン漆喰）で作られた鮮やかなゴールドの壁、そして大きなきらめくシャンデリアまでもが……。そういったものは、少なくとも300年以上絶え間なく続いてきた文化や美の行程の頂点にたどり着いたのだといえる。

ローマの、あの忘れ難きよき時代の全盛期において、仕立服というものは表面的にも内面的にも完璧に釣り合いのとれたものであった。かつてアトリエは、クチュールの天才が己の素晴らしい直感を完璧なる手作業で形作っていくところであった。そして客は、世界中のどこからの来客であろうとも、天才たちの特権が、彼らの生地を操る能力や、繊細なマテリアルを形作っていく想像力などに依っていることを知っていた。それは例えば、目が詰んでいてもとても軽いウール、きぬ擦れの音がするほどさらりとした手触りのよい絹、純粋なコットンなどのマテリアルを使いこなす能力でもあった。

彼らは、入念な仕事においても疲れを微塵も感じさせず、まるで作品が自分で花開いたかのように、あるいはその時期が自然に来たかのように感じさせることができた。それはダリの有名な“柔らかい時計”に似ている。建築と詩趣——ダリが独創的にそれを肯定したように——“molli e commestibili（柔らかくて食べられるもの）”と。

いうならば、お金持ちの女性客が目新しいものや、あるいはその日の午後には、しかも10部程度しかオーダーできない限定本の入手や、または同様に、家主が布張りされたスツールや、ベネディクトゥスの絵にあるポーベの小さなしるしや、ブランクーシ作のブロンズ像や、マティアス・スタインのサインの入った象牙製品のような特別なものを手に入れることに苦しみ、喜びを見い出すようなものなのだ。

そのころの文学、映画、演劇、音楽関係の教養人や愛好家の女性たちは、デクパージュ・キュービストの洗練されたコレクションと、完璧に時代と調和していた服とに同等の価値観を見出し出していた。それが、絶対的で世界的なコンセプトによる美しさや強さから引き出されていることを認めていたからだ。プラトニックな理想とでもいえるか。だから、それらの創造物を見て驚く様を見せるわけではなく——もちろん、沈黙を守っていた。

そのころのアトリエで、絶対的な掟——それは唯一無二のコンセプトだった。服はいわゆる幻想の表現……それは歌麿の絵のようなものだった。または、注意深く17世紀のフランドルの布でできた壁掛けに入れられるようなもの、あるいは入念に光から保護されて保管される16世紀のフィレンツェのサンギーヌ画（赤褐色コンテによって描かれた素描）のようなものといえるか。贅沢な社会の豪華な雰囲気そのものを纏った衣服は、まさにルイ15世スタイルの飾り棚や、江戸時代の陶器のようなものであり、それらは比類なき時代の証拠としてわれわれの時代までたどり着いた。それらが持っている美や文化とともに。そのことは、さらにわれわれの情熱と感嘆を引き起こす。

例えばエンリコ・クイントとパオロ・ティナレリのような情熱を持ったコレクターのおかげで、今日に至ってもかつての創造物はその最高の美をわれわれに見せてくれる。美しい絵画についても同様のことがいえる、かの有名な二人の天才、ゴンクール兄弟のコレクション作品が遺言により市場に出回ったことで、絵画市場に再び輝きに戻り、現代の鑑定人や美の文化人らに感動と感嘆を与えている。

デルフィーナ・デレットレーズは、名士としての明晰さと創造性豊かな才能を持ち（彼女は偉大な伝統を持つフェンディの後継者である）、同時に彼女はジュエリーのクリエイターとしても大成功を収めているが、今また本来の自分のスタイルに立ち戻り、その魅力を存分に見せてくれる。そう、明日を感じさせるような。彼女のジュエリーは、卓越した手工芸の伝統にとど

まることなく、時代遅れにならない魅力を保ち続けていくことだろう。たとえそれがかつての創造物が、作られたころの時代背景を物語ったり、反映したりしているとしても……。

具体的に客観的に、しかも美しいだけでなく基準に適合している製品が求められる時代だからこそ、より洗練された価値あるものが求められているのだ。そこで今、デルフィーナによって再び革新派アーティストら（ジャン＝ミシェル・バスキアやダミアン・ハーストラ）に注目が集まっており、彼らの情熱が世間に広まろうとしている。

デルフィーナは、なかでも最も説得力のあるアーティストである。彼女は、その美的センスとリサーチから過去と未来を融合した超現代的な作品を提示、同時代性を明確に表現している。それは現代的なモードと、偉大なアルタ・モードの中心地で栄えていたモードとの融合である。彼女は今、アルタ・ローマ（ローマのオートクチュール協会）の代表であるシルヴィア・ヴェントゥリーニ・フェンディとともに、ローマという街が創造性豊かな英知の宝庫であったころの時代をイメージしながら、かつてのような才能と美の歴史、そして優れたアーティストに満ちあふれた街に戻そうとしている。それらは、アルタ・ローマがかつての輝きを取り戻すための欠かせない活力なのだ。その最高の例として、この若きクリエイターは彼女なりの大胆な時代性で、そしてまたわれわれ現代人の時代性をもって、かつての歴史ある時代との融合を試みている。ローマは今、かつて世界の中心地だったころに戻る準備をしている。

——ハリウッドがイタリアのテレ地区に上陸したころ——、それらの服やジュエリーが、完璧にスタイリッシュな女性たちの世界的な憧れの対象になろうとは誰が予想できただろうか。そして、4世代を経た今、あのころの表現様式やスタイルが、これまでの汚染された原材料や無制限なアバンギャルドに代わり、今再び輝きを取り戻すことを誰が想像できただろうか。

しかし、それが時代の移り変わりというものであり、まさにシークレットでもあるのだ。

PROFILE

QUIRINO CONTI 1951年、イタリア・マルケ州生まれ。ファッション、服飾研究、演劇、映画、宗教など活動は多岐にわたる。フェリーニやオーソン・ウェルズ映画の衣装デザインや舞台設計も手がけた。プリンチベッサ・カラッチオーロ（フィアットの元名誉会長であるジャンニ・アニェッリの妻）の服を仕立てていたアトリエ・カローザでアルタ・モードに出会い、以後トラサルディ、クリツィアやヴァレンティノといったイタリアの一流メゾンとコラボレーションをする。神秘的なデザイナーとも称されるイタリアファッション界の重鎮。